



能法五卷

坤



修務五事題錄目錄

乾坤之類

文月一	立秋一	初秋一	合秋二
綽畧二	稿畧三	初畧三	花生三
天川三	七夕四	祝洗四	梳髮四
貸小袖四	立彗五	星之膏五	星合五
星不五	星彗五	彗六	彗市六
迺生六	送火六	燈籠六	切籠六
真燄七	接符七	門崇七	魏棚七
玉祭七	彗月七	生身魂八	刺轉八
西瓜八	踊八	角力九	八月九



蕨	三	木槿	三	唐李子	三	鬼灯	一
系瓜	一	早稻	一	稻	一	稻	一
芥田	二	落糖	二	落	二	钩芒	二
豆引	二	落	二	芙蓉	三	木槿	三
芭蕉	三	蓬实	三	香薯	三	零子	四
梓	四	木实	四	推	四	粟	四
落	四	初芽	五	菊	五	空菜	五
尾	五	十菜	五	菜	五	末	六
菜	六	早稻	六	早	七		
虫	七	秋	八	秋	八	秋	八

生小部

下二

目

菜	八	菜	八	秋	九	秋	九
烟	九	糖	九	糖	九	糖	十
露	十	糖	十	糖	十	糖	十
川	十	初	十	初	十	初	十
稻	十一	鸭	十一	鸭	十一	鸭	十一
山	十一	啄	十一	啄	十一	啄	十一
海	十二	新	十二	新	十二	新	十二
原	十二	落	十二	落	十二	落	十二

仙傳五百題年月源

物坤之類

十月	四六	神壽月	四七	小春	四七	小六月	四七
初冬	四七	冬	四八	冬日	四八	玄務	四八
采	四八	冬	四九	冬採	四九	冬採	四九
燈屏	五〇	口切	五〇	冬採	五〇	桐生桶	五〇
竹枝	五一	精	五一	巨魁	五一	埋生	五一
海鏡	五二	宏寔	五二	宏	五二	宏	五二
蕭固	五三	沈表	五三	布子	五三	山中	五三
足袋	五四	冬川	五四	冬山	五四	山然	五四
露月	五五	冬玉	五五	冬山	五五	子然	五五

袴足	五五	數委	五五	教尺世	五五	冬月	五五
空月	五六	牙	五六	落水	五七	水	五七
少粒	五八	空車	五八	精	五八	孫	五八
戰	五九	納豆	五八	厚只吹	五九	平紫	五九
紫味	五九	少走	五九	羅八	六十	空入	六十
空二	六十	空考	六十	空分	六十	松足	六十一
年用毒	六十一	年用急	六十一	空符	六十一	年忘	六十一
年毒下	六十二	年牛想	六十二	煤耕	六十二	孫橋	六十二
孫遠	六十三	行年	六十三	年魯	六十三	年市	六十三
年空然	六十三	年坂	六十三	掛乞	六十三	厄拂	六十四
周兄	六十四	大世日	六十四	除水鏡	六十四	除家	六十四

神符之部

神送	六五	神搖	六五	神留	六五	神返	六五
神生燒	六六	吹草	六六	神名越	六六	連磨忌	六六
神命海	六六	叶	六六	神名會	六七	芭蕉忌	六七
神忌	六七	極子海	六七	神印	六七	神佛忌	六八
神念仙	六八	神垢	六八	神未	六八		
降物之部							
神時向	六九	神時向	六九	神象	七十	神象	七十
神和	七一	神向	七一	神向	七一	神	七一
神	七一	神	七一	神	七一	神	七一
神吹	七二	神	七二	神	七二	神	七二
神	七三	神	七三	神	七三	神	七三

下四

植物之部

神	七四	神	七五	神	七五	神	七六
神	七六	神	七六	神	七六	神	七七
神	七七	神	七七	神	七六	神	七八
神	七八	神	七八	神	七六	神	七九
神	七九	神	七九	神	八十	神	八十
神	八十	神	八十	神	八十	神	八十一
神	八十一	神	八十二	神	八十一	神	八十二
神	八十二	神	八十三	神	八十二	神	八十三
生獸之部							
神	八十三	神	八十四	神	八十四	神	八十四
神	八十四	神	八十四	神	八十四	神	八十四
神	八十四	神	八十四	神	八十四	神	八十四
神	八十四	神	八十四	神	八十四	神	八十四

目

号子唱	八十五	号子唱	八十五	浮山卷	八十五	小鴨	八十五
鴨	八十六	乾鮭	八十六	生魚氣	八十七	蝦	八十八
鮭鱈	八十七	飯	八十七	牡丹重	八十七	網代	八十八
粟	八十八	五菜	八十八	木壳	八十八	暖香	八十九
表無引	八十九	良書持	八十九	瘡	八十九	瘡	八十九
瘡	八十九	冬朗録	九十	都五百章	九十九		

下五

俳諧五百歌

過日庵組俳諧
能く愛卜早按

秋之部

文月
 文月也揮甲の戦くく居る事
 文月也秋の葉も志する後さる
 文月也年暮の糸糸切れる事
 文月也七尾物替くく夕暮る事
 文月也水も氷も不敷く事
 文月也紅くく付くく下敷く
 文月也物の如減れ者もいへる

一具
 唯
 卜早
 由装
 内巻
 如法
 後帝

秋

立秋

笠葺る露ふ秋の寒入りけ
 秋立也あけは道杉葉を揺え
 推の回そぬるは下立よりけり
 散屋あふりけは清く秋立
 秋立也人に出来ぬそりて
 祝の酒さへふとさう先より
 耳よりせぬも物色立七枝の秋
 秋立也ふ葉よけはゆけり
 去の秋の心もさうて
 秋立也白き雲を揺え
 初時やいと忘れぬはるの春時

双鳥

初時

去の秋の心もさうて
 秋立也白き雲を揺え
 初時やいと忘れぬはるの春時

一具

今秋

初秋也露ふ初るくたまりん
 去の秋也暑くけり候は原州
 去の秋也さうけり候は原州
 不斗さめる秋也秋の露はり
 初秋也暑く物色は庭片より
 月さす初秋の夜を更しり
 月少く候はれり候は秋の夜
 楓もさくも水もはなれり候は
 けり雲の水も移り候は秋
 何れもく候はれり候は秋
 日の片も候はれり候は秋

等雄

向号

末屋

愚行

初柳

川史

梅室

尺尾

桂陰

巳有

秋

松竹

下

妙巽

口敷の人子へうらうら今秋は特ト早
 毛もさへ春よりけりねとさき秋 函 洞
 瓦直火保草鳴く色もさの秋 斗 一
 夕さの秋山園子さやまを秋巽也 丁 知
 夕の秋風の送る如片人思ふ 加 法 良
 秋さ子の様も香るにきん思ふ 文 帯
 名草めくれ葉も秋るにのさる 巴 雲
 夕もはさる風吹あらし秋巽也 如 露
 我と葉のそつとめまつ秋巽也 言 感
 夕傳さるるの露おろけ秋巽也 古 崇
 風河く流るの道よとさ人思ふ 有 此

稻葉

夕の夕や柳ふ雀のつとつり ト 早
 稲葉も在りまうらうら 如 翠
 稲葉も毛のつれおちる一ツ 雲 梅 通
 稲妻もいと秋所の音傳るれ 双 鳥
 稲葉も毛もさるる本は葉 有 此
 夕のつとつる本の上よめのふと 雲 岱
 稲葉も毛もさるる本は葉 星 峰
 夕のよるもさるる本は葉 可 性
 夕のよるもさるる本は葉 吹 風
 夕のよるもさるる本は葉 旭 富
 夕のよるもさるる本は葉 菊 山

初巻

秋

出

都く舟へ通る幾七きり嵐 松露
 きのまはれそくきくきくき 乙園
 網干くおろい見ゆり中初河じ 雲雀
 今と待もそ中自然出ぬも 卜早
 洲を橋よりゆる出さのふゆ 舟舟
 人聲 此中より上り出せ 舟舟
 若き〜〜の重き〜〜 難に花生 舟舟
 霧のりはむは河らそふ見ぬ 舟舟
 正さ〜〜の羽振直に花重の響 舟舟
 珠山の岸も木立七河舟の川 舟舟
 椽先を這ふ子もさぬ〜天は 舟舟

天川

流きつ〜子木冷に七銀澤 舟舟
 風靡ふ〜音のあふぬ〜河川 舟舟
 お道よ老の〜も〜や天の河 舟舟
 庭光り〜〜の〜〜の川 舟舟
 橋より風の枝ま〜〜〜 舟舟
 雲〜〜の程のゆ〜〜の河 舟舟
 念の〜〜の〜〜の河 舟舟
 此夕ア月山は〜〜の河 舟舟
 七夕の夜も〜〜の夜も〜 舟舟
 七夕子静〜〜の夜も〜 舟舟
 七夕を見えぬ人の〜〜の 舟舟

七夕

秋

硯洗

七夕の井も人のまゝ言 相只
 友をくまの井の光りも骨の白 好風
 子くもや硯洗ふよ念のぬる 峰丸
 露の結氷や洗ふ硯の如 卜早
 露の結氷や洗ふ硯の如 峯和
 振の糸戸人の顔もに云やと 文帯
 振の糸戸抗涼くく足ぬくく丸 笥裁
 夕の糸戸抗涼くく足ぬくく丸 笥壺
 如屋中衣桁とくくかー小袖 厚一床
 細糸の糸戸くくくくくくく小袖 如片良

振糸

袋小袖

立巻

暮る時のをむおき 袋袋小袖 下早
 かー小袖はぬく 好風丸 振露
 雲井のくくくくくくく袋袋小袖 一里
 立巻子月の帯の如くくく 迅查
 立巻のむくく 權はくく 如片良
 立巻のむくく 志ある袖の露 夕早
 立巻のむくく 志ある袖の露 細糸
 立巻のむくく 志ある袖の露 瓦村
 立巻のむくく 志ある袖の露 下早
 立巻のむくく 志ある袖の露 二物

立巻

秋

燈籠

多き門町並橋の燈籠の如	京邸
家敷の如くもぬの燈籠の如	赤山
水鏡の如くもぬの燈籠の如	梨亭
船子と燈籠の如くもぬの燈籠の如	和屋
水鏡の如くもぬの燈籠の如	川原
清くもぬの燈籠の如くもぬの燈籠の如	川原
水鏡の如くもぬの燈籠の如	磯屋
燈籠の如くもぬの燈籠の如	、
多き海子と燈籠の如くもぬの燈籠の如	井筒
燈籠の如くもぬの燈籠の如	景文
燈籠の如くもぬの燈籠の如	組所

物籠

高野籠

山くもぬの燈籠の如	西土
町中くもぬの燈籠の如	景文
物籠の如くもぬの燈籠の如	内巻
物籠の如くもぬの燈籠の如	峰裏
物籠の如くもぬの燈籠の如	以燈
物籠の如くもぬの燈籠の如	卜早
物籠の如くもぬの燈籠の如	如隣
物籠の如くもぬの燈籠の如	出月
物籠の如くもぬの燈籠の如	僕民
物籠の如くもぬの燈籠の如	文跡
物籠の如くもぬの燈籠の如	組所

六葉

秋

保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保
保	保	保	保	保	保	保	保	保	保

生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生
生	生	生	生	生	生	生	生	生	生

秋

八月廿九日... 舟... 柳... 葉月... 主田姫... 舟... 柳... 葉月... 主田姫... 舟... 柳... 葉月... 主田姫...

八月朔... 舟... 柳... 葉月... 主田姫... 舟... 柳... 葉月... 主田姫... 舟... 柳... 葉月... 主田姫...

秋

約 行の字那姓
 駒 匠の字那姓
 約 匠の字那姓
 約 匠の字那姓
 約 匠の字那姓
 約 匠の字那姓
 約 匠の字那姓
 約 匠の字那姓
 約 匠の字那姓
 約 匠の字那姓
 約 匠の字那姓

秋

浪くくはりぬるく 撰中 秋の序
 秋の序 海に到 深くく けむる風
 春をくくはる 春の初来や 好秋序
 秋斗くくはる 通くく けむる風
 秋の序 好秋序 秋の序
 秋の序 好秋序 秋の序
 秋の序 好秋序 秋の序
 秋の序 好秋序 秋の序
 秋の序 好秋序 秋の序
 秋の序 好秋序 秋の序

秋

秋考

下り坂やまのれ水秋の考 九起
 朝のや木下重く死に命の考 羽長
 舟をこぐ水木より舟をこす秋の考 ト早
 目もくく物もくく秋の考 空盛
 家袖の隣るそまのたに秋の考 良和
 ふつと腹の突く痛く秋の考 舟
 舟もくく水もくく秋の考 翠堂
 ふつと水もくく秋の考 かた良
 舟もくく水もくく秋の考 薫睡
 舟もくく水もくく秋の考 蟻道
 舟もくく水もくく秋の考 嵐富

露

露のや秋の夜露の照みふく 依之
 露のや秋の夜露の照みふく 実市
 露のや秋の夜露の照みふく 素朗
 露のや秋の夜露の照みふく ト早
 露のや秋の夜露の照みふく 双鳥
 露のや秋の夜露の照みふく 一
 露のや秋の夜露の照みふく 素曉
 露のや秋の夜露の照みふく 雅路
 露のや秋の夜露の照みふく 早介
 露のや秋の夜露の照みふく 松竹
 露のや秋の夜露の照みふく 松竹

竊

雪のけしきつめくたきや露のけしき
清くくいとくわくまきし雪のけしき
雪のけしきよきけりし山のけしき
晴のけしきよきけりし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき

初月

雪のけしきつめくたきや露のけしき
清くくくいとくわくまきし雪のけしき
雪のけしきよきけりし山のけしき
晴のけしきよきけりし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき

秋空

雪のけしきつめくたきや露のけしき
清くくくいとくわくまきし雪のけしき
雪のけしきよきけりし山のけしき
晴のけしきよきけりし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき

初月夜

雪のけしきつめくたきや露のけしき
清くくくいとくわくまきし雪のけしき
雪のけしきよきけりし山のけしき
晴のけしきよきけりし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき
水は清くくまきし水のけしき

二日月

藤の葉は茂るはるの月
 耳の毒も解くは秋の月
 汗毎ととぬくは秋の月
 衣川の虫いさへは秋の月
 二日月七人の名先は秋の月
 井の底の石は秋の月
 如ぬ橋の袖は秋の月
 三日月七人の名先は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月

如唐
 涼
 涼
 涼
 涼
 涼
 涼
 涼
 涼
 涼
 涼

秋月

夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月
 夕の輝は秋の月

夕
 夕
 夕
 夕
 夕
 夕
 夕
 夕
 夕
 夕
 夕

秋

月

空の月は力のかたむきしり
 地をくくぬる程は秋の月
 りとの空は直如く月とまのるは
 水は月一つとくくおの海
 物重は一羽のさつとつる月
 井の端は静かしく月の青さ
 月代は毛髪を度くお時の如
 為の文は運ぶのさきし月の雲
 名難おんもさうさやかとの
 月と海はさきのりかき星のさ
 山はくく結ぬる月のさきか
 林 膏
 卜 早
 羽 長
 冥 市
 為 山
 一 鳥
 森 竹
 泉 峰
 卜 舟
 秋 雲
 巻 高

月 兄

月代はさきより向く一人言
 まはすく物は月か陰をうれ
 兄は書に馬あり月の照る
 ねは毛は物と折の月兄は
 川 越しうくくさきさき月兄は
 阿比果一庵はさきし月兄は
 幸の上はあき月のさきし
 秋はさきの葉はさきし月兄は
 葉はさきさきさきし月兄は
 子はさきさきさきし月兄は
 空はさきさきさきし月兄は
 花 行
 佳 暇
 舟 歌
 鳥 以
 葉 枝
 水 英 女
 鳥 舟
 秋 雲
 言 山
 海 高

秋

片一付ふりりるをるはる
 白の折るるはるはる
 晴障のまきくはるの
 おりるのはるはる
 うすのめれをあらは物か
 新の障りて底まきくはるの
 空通はるはるはる
 河りてまの心配りか
 西もまきくはるの
 名も新のはるはる
 霧るまの月もはるはる

空塔
 一具
 重堂
 如什
 出系
 一旭
 如彦良
 大古
 朱川
 西塔
 双折

月名

名月
 名月の輝り
 名月の先
 名月の光
 名月の影
 名月の色
 名月の香
 名月の味
 名月の触
 名月の思
 名月の情
 名月の志
 名月の行
 名月の果

内巻
 丹岩
 小艇
 瓦村
 後民
 双折
 交帯
 策枝
 美岳
 松堂
 素庵

乙酉の暮ありや雲の何り雲 乙酉
多き小春の霜もよき時を待た 卜年
十月廿七日 乙酉 暮の暮の暮 〃
あつとよきるやあつとよきる 〃
十月廿七日 乙酉 暮の暮の暮 〃

立杉 立杉や生垣修に 〃
立杉や生垣修に 〃
立杉や生垣修に 〃
立杉や生垣修に 〃
立杉や生垣修に 〃

放生會 放生會 〃
放生會 〃
放生會 〃
放生會 〃
放生會 〃

後徳岸 〃
〃
〃
〃
〃

冷 〃
〃
〃
〃
〃

秋 〃
〃
〃
〃
〃

秋重也芒の如く水乃以名 本公
 秋重也秋の如く水乃以名 卷高
 朝重也秋重也秋重也秋重也 雨堂
 井の底も水乃以名 一旭
 秋重也秋重也秋重也秋重也 文叔
 秋重也秋重也秋重也秋重也 葉姓
 秋重也秋重也秋重也秋重也 素庵
 秋重也秋重也秋重也秋重也 為山
 秋重也秋重也秋重也秋重也 出徑
 秋重也秋重也秋重也秋重也 希山
 秋重也秋重也秋重也秋重也 可保

秋重

秋重也秋重也秋重也秋重也 壽山
 秋重也秋重也秋重也秋重也 貞来
 秋重也秋重也秋重也秋重也 彦海
 秋重也秋重也秋重也秋重也 董晓
 秋重也秋重也秋重也秋重也 松露
 秋重也秋重也秋重也秋重也 飛松
 秋重也秋重也秋重也秋重也 卜早
 秋重也秋重也秋重也秋重也 由堂
 秋重也秋重也秋重也秋重也 葉高
 秋重也秋重也秋重也秋重也 味香
 秋重也秋重也秋重也秋重也 所居

秋重

秋重

秋

長崎

秋歌よりのそよそよの秋の風

秋の風よりのそよそよの秋の風

秋の風よりのそよそよの秋の風

秋の風よりのそよそよの秋の風

秋の風よりのそよそよの秋の風

秋山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

長崎

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

秋の山よりのそよそよの秋の山

市北町の海石の砂の長秋の
下早
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く
秋日和 温泉の湯の熱の如く秋の如く

秋

咏子

川子 爲る 藤水の 二百十日 九月
 是子 爲る 二百十日 九月 藤水
 生る 爲る 九月 十月 十月
 川子 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月

川水

川水 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月

栗山子

栗山子 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月

落水

落水 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月
 十月 爲る 十月 十月 十月

秋

今年米

一寸好く高のくもあつて一宋 松露
 又今一として昔年一也今年米 獲民
 手もく取らむと云ふ河く今年米 果佛
 今一はさのくを片めるとも米 卜早
 行くとくは好く人の好きと新法也 植二
 朕くとくはまむ向を新法也 中米
 産の中くは好くして新法也 可應
 少くは二おとくも人好く 菜山
 少く掛くとくは好く新法也 山方
 今一市くとくは好く新法也 百丈
 善くは好く新法也 冥曉

新法

節人の節人も好くも人好くも

新法也再と録一も好くも

新法も好くも好くも新法也

九月

九月の目先も好くも九月も

今く出も好くも今く出も

今く出も好くも今く出も

今く出も好くも今く出も

後雜

今く出も好くも今く出も

今く出も好くも今く出も

今く出も好くも今く出も

今く出も好くも今く出も

物味吟

向小松の葉を好く〜物味吟
 物味吟の詩集下巻〜古風
 源平の物語の補の歌
 地味吟の詩集下巻〜古風
 味吟の詩集下巻〜古風

新秋

新秋の詩集下巻〜古風
 新秋の詩集下巻〜古風
 新秋の詩集下巻〜古風

秋吟句

秋吟句の詩集下巻〜古風
 秋吟句の詩集下巻〜古風
 秋吟句の詩集下巻〜古風
 秋吟句の詩集下巻〜古風
 秋吟句の詩集下巻〜古風

暮秋

暮秋の詩集下巻〜古風
 暮秋の詩集下巻〜古風
 暮秋の詩集下巻〜古風
 暮秋の詩集下巻〜古風

惜秋

惜秋の詩集下巻〜古風
 惜秋の詩集下巻〜古風
 惜秋の詩集下巻〜古風

新秋

新秋の詩集下巻〜古風
 新秋の詩集下巻〜古風
 新秋の詩集下巻〜古風
 新秋の詩集下巻〜古風
 新秋の詩集下巻〜古風

秋

けり秋よあはれうらさるあまうれ 竹書
 ゆく秋や氷の結く恒のうら 井架
 橘子ひら筋達くさくささのうら 巴書
 油屋のメ本結きるはささのうら 友甫
 蛭のひら日先よ素くうら 九月 文華
 古橋や木小屋もあはれく九月 秋山
 うささうの秋を自由やうの葉 秋山
 り結くくぬ日の暮やうとあさくそ 雲雲
 相一葉 秋志あり一葉のうら結くうら 雲雲
 友のあはれ写るは秋のうら 秋山
 板橋くさくさくさくさくさく 秋山 可保

起くやう葉あはれうらさる葉 山方
 は秋時のあはれうら相のうらさる葉 水竹
 望崖秋のうらさる葉あはれ 秋山
 水うささく静れ秋のうらさる葉 太古
 ちる葉のうらさる葉あはれ 秋山
 葉くさる葉あはれ葉あはれ 丹菰
 月陰ふ踏くおさくくはる葉あはれ 布山
 散柳 身の陰あはれ葉あはれ葉あはれ 二物
 柳あはれ葉あはれ葉あはれ葉あはれ 龜河
 葉あはれ葉あはれ葉あはれ葉あはれ 井竹
 ちる柳水あはれ葉あはれ葉あはれ 卜早

秋

萩

是もあつめの日打つてつる柳の事	月宮
風もあつくはるやれあつてあつる日	好月
おをえりしもあつく萩の夜り	由緒
言水もあつくはるやれあつてあつる日	松山
萩の風もあつくはるやれあつてあつる日	中興女
あつてあつくはるやれあつてあつる日	景観
お水もあつくはるやれあつてあつる日	平甚
お水もあつくはるやれあつてあつる日	山方
お水もあつくはるやれあつてあつる日	白号
お水もあつくはるやれあつてあつる日	ト外
お水もあつくはるやれあつてあつる日	庭梅

桔 枝

見様子の清くはるやれあつてあつる日	斗一
見様子の清くはるやれあつてあつる日	梅通
見様子の清くはるやれあつてあつる日	岩吉
見様子の清くはるやれあつてあつる日	萱月
見様子の清くはるやれあつてあつる日	桐只
見様子の清くはるやれあつてあつる日	景文
見様子の清くはるやれあつてあつる日	果也
見様子の清くはるやれあつてあつる日	松露
見様子の清くはるやれあつてあつる日	得甚
見様子の清くはるやれあつてあつる日	白号
見様子の清くはるやれあつてあつる日	三松屋

女郎

秋

花	草
見く春行し心のそらけきさのむ	第一のあきさ原の水のりさのむ
あふ春行し心のそらけきさのむ	新橋の海をへる也ささの華
あふ春行し心のそらけきさのむ	一寸の春の木履よとほや判のむ
あふ春行し心のそらけきさのむ	笠持て照らすとそやまのむ
言山	星峰
ト早	桐只
味害	かたはら
未川	今哉
月山	
吹原	
恬	
古素	
作架	
芸屋	
春	

花

見く春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ	あふ春行し心のそらけきさのむ
言山	ト早	味害	未川	月山	吹原	恬	古素	作架	芸屋	春					

曼珠沙華

月をささく見まきくさるるむの如
一花をば候く——花野を

まをくくわく露まらう——曼珠沙華
花野をば候く春なり曼珠沙華

花野をば候く春なり曼珠沙華
花野をば候く春なり曼珠沙華

花野をば候く春なり曼珠沙華
花野をば候く春なり曼珠沙華

花野

花野をば候く春なり曼珠沙華
花野をば候く春なり曼珠沙華

花野をば候く春なり曼珠沙華
花野をば候く春なり曼珠沙華

花野

花野をば候く春なり曼珠沙華
花野をば候く春なり曼珠沙華

花野をば候く春なり曼珠沙華
花野をば候く春なり曼珠沙華

花野をば候く春なり曼珠沙華
花野をば候く春なり曼珠沙華

菊

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

あまのつばきをば候く春なり曼珠沙華

木権

博の筆はくもく垣の木権か 出月
 蒼色根の古きよはゆのまはりか 卜早
 ちりちりちり垣の隅の如木権か 竹屋
 雲雨は夕飯をまきまきまはりか 涼岳
 重信の性急まよふはるるはりか 古風
 ちりちりちり垣の隅の如木権か 其仙
 植のまきまき垣の隅の如木権か 嘉山
 人よまきまき垣の隅の如木権か 可意
 まはりの如きまき垣の隅の如木権か 孤折
 一々一死於や葉のみの木権か 嘉山
 是くまきまき垣の隅の如木権か 緑峰

唐菓子

鬼燈

何れもまの如ふた——唐か—— 友子
 鬼灯の市はふりふり秋の色 乙良
 ちりちりちり唐か—— 嘉山
 ちりちりちり唐か—— 水戸良
 ちりちりちり唐か—— 翠峯
 ちりちりちり唐か—— 竹屋
 ちりちりちり唐か—— 卜早
 系瓜 魁出く月入る垣の系瓜く丸 一
 向きのまきまき垣の隅の如木権か 水静
 家菓子おの如きまき垣の隅の如木権か 水折
 早稲 子搦のまきまき垣の隅の如木権か 水折

秋

早稻のまは垣外葉の頃	高年
葉ふちの葉の葉の葉	岩高
早稲のまは垣外葉の頃	組以
あつたまのまのまのま	結集
あつたまのまのまのま	新有
あつたまのまのまのま	結山
あつたまのまのまのま	查考
あつたまのまのまのま	深淵
あつたまのまのまのま	為山
あつたまのまのまのま	如法
あつたまのまのまのま	後年

秋

先稻のまのまのま	下早
あつたまのまのまのま	一
あつたまのまのまのま	帰各
あつたまのまのまのま	重負
あつたまのまのまのま	陰市
あつたまのまのまのま	結山
あつたまのまのまのま	好山
あつたまのまのまのま	丹山
あつたまのまのまのま	深山
あつたまのまのまのま	旭高
あつたまのまのまのま	之山

秋

龍賞

すしりのちのよすはむのち
の敷金に葉を飾りて一葉の
海をまきつて人々の飾りて
片のまきつて葉をのまきむら
豆門 豆門の葉のまきつて人のまき
門のまきつて葉のまきつて
まきつてのまきつて葉を飾りて
秋のまきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて

豆門

まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて

葉花

まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて

芙蓉

まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて

本年

まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて

芭蕉

まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて
まきつてのまきつて葉を飾りて

秋

雅

茶

拾りたる斗を物の池きりれ 雅心
 案板也雅の重くく 森の香 雅高
 けりしん忘ぬやりの茶の味 由美
 片はけしみの天音也その味 真山
 味香や拾りし物もいんりこ 貞生
 香葉や茶の味もいんりこ 好原
 あふりの水の物もいんりこ 隆丸
 二葉の茶の味もいんりこ 卜早
 香然くも茶の味もいんりこ 忍号
 四一校をきりて一校をきりてははは 有丹
 けいんりこいんりこいんりこ 千代女

芳華花

初草

園物

中菊

村甲下及くぬかぬかぬか 貞生
 初草也若くして小名のり 由美
 初草 中草 小草 ちちちちちち 忍号
 若く草の味もいんりこ 隆丸
 草の味もいんりこ 貞生
 初草の味もいんりこ 好原
 中草の味もいんりこ 隆丸
 小草の味もいんりこ 貞生
 初草の味もいんりこ 好原
 中草の味もいんりこ 隆丸
 小草の味もいんりこ 貞生

秋

十分のりさくぬくまの袋	ト早
大葉せもくた方らぬあつた糸	忠号
汗たれの折ふせくふとくも巻	友甫
夏よりぬれの巻のつせきくも巻	巻高
秋の巻も巻るるむねの巻も巻	平基
丹の巻も巻るるむねの巻も巻	二物
緞入りも巻るるむねの巻も巻	集曉
あつちのりさくぬくまの袋	かたき
糸の巻も巻るるむねの巻も巻	ト早
今頃のりさくぬくまの袋	己
秋の巻も巻るるむねの巻も巻	如早

紅葉

紅葉

風も吹くも紅葉のりさくぬくまの袋	可保
山も紅葉も巻るるむねの巻も巻	小松
夕の巻も巻るるむねの巻も巻	穂市
霜極のりさくぬくまの袋	丁加
風も吹くも紅葉のりさくぬくまの袋	貞主
露木の巻も巻るるむねの巻も巻	古風
巻山のりさくぬくまの袋	巻高
秋の巻も巻るるむねの巻も巻	ト早

秋

残秋

秋の故の春とて思ふも久しき名残の春
 青の空の白くも暮れ秋の故よりか
 秋の故の片のこゝに寝るもさきより亮
 のまゝ秋の想もや瓜とる極のさだ
 残る故の心もさる春を思ひし
 心ゆく友の春の心を茶立の
 帷子も掛かいたる茶立の
 人の春の心もさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の

茶立

心ゆくもさる茶立の
 帷子も掛かいたる茶立の
 人の春の心もさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の

茶立

心ゆくもさる茶立の
 帷子も掛かいたる茶立の
 人の春の心もさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の

秋輝

秋の輝の如くもさる茶立の
 帷子も掛かいたる茶立の
 人の春の心もさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の

秋輝

心ゆくもさる茶立の
 帷子も掛かいたる茶立の
 人の春の心もさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の

補

秋

心ゆくもさる茶立の
 帷子も掛かいたる茶立の
 人の春の心もさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の
 心ゆくもさる茶立の

蝶

白紙のりもぬきしきぬいさき
 可意
 是作の跡故はあつらひの
 ちり
 きりくはつゆゆのたの
 龍儀
 年よりつらきつらきつら
 双鳥
 ぬききあつたあつたあ
 卜早
 きりくはつゆゆのたの
 一旭
 夕暮の清平鳥やきりく
 候年
 不中しはつらつら
 世例
 ぬききあつたあつたあ
 壽山
 ぬききあつたあつたあ
 冬
 ぬききあつたあつたあ
 丁未

落

ぬききあつたあつたあ
 船以
 ぬききあつたあつたあ
 小折
 落 ぬききあつたあつたあ
 きりく
 落 ぬききあつたあつたあ
 峰女
 落 ぬききあつたあつたあ
 茨岳
 落 ぬききあつたあつたあ
 丁未
 落 ぬききあつたあつたあ
 文殊
 落 ぬききあつたあつたあ
 魚舌
 川 ぬききあつたあつたあ
 河原
 落 ぬききあつたあつたあ
 千代女
 落 ぬききあつたあつたあ
 和生

川

秋

初社

三井池の水くううううの
兼し河原のくくくくくく
内鹿

和社 七間社
鶴菜

物曳

物曳 物曳
月

物曳 物曳
月

物曳 物曳
月

物曳 物曳
月

物曳 物曳
月

物曳 物曳
月

鳥

鳥 鳥
李鮎

稻

稲 稲
早

稲 稲
早

稲 稲
早

稲 稲
早

稲 稲
早

町

町 町
山

秋

原

原崎也持り人の心もさゆり 由誓
 けきくも果さすもさゆり小田 東川
 山崎也きくもさゆり小田 月山
 富中もさゆりもさゆり 喃月
 立下もさゆりもさゆり 味喜
 雲た集もさゆりもさゆり 可座
 あまのりもさゆりもさゆり 丁知
 一折もさゆりもさゆり 葦山
 さゆりもさゆりもさゆり 林鳥
 原もさゆりもさゆりもさゆり 涼名
 半もさゆりもさゆりもさゆり 香吹

原

原

原崎也持り人の心もさゆり 由誓
 けきくも果さすもさゆり小田 東川
 山崎也きくもさゆり小田 月山
 富中もさゆりもさゆり 喃月
 立下もさゆりもさゆり 味喜
 雲た集もさゆりもさゆり 可座
 あまのりもさゆりもさゆり 丁知
 一折もさゆりもさゆり 葦山
 さゆりもさゆりもさゆり 林鳥
 原もさゆりもさゆりもさゆり 涼名
 半もさゆりもさゆりもさゆり 香吹

秋

秋詠詠

子よきくはは秋の夜半の月
 白雲の世話のまはるる水
 焼く物も新九代も
 子きぬは焼く時をそそぐ
 系入のまはるる秋の月
 不二の日は秋の月
 根をぬぐはぬは秋の月
 伝はるる秋の月
 冬と秋のまはるる秋の月
 系入のまはるる秋の月
 子よきくはは秋の月

宇乐
 三郎
 庭松
 春山
 美山
 星峰
 采井
 旭富
 雪山
 系入
 只

俳諧の詠

道の庵組郷撰
 編く雲ト早掬

冬之詠

十月 十月や甲下中への秋の月
 十月やふくまの秋の月
 十月や秋の月
 十月や秋の月
 十月や秋の月
 十月や秋の月
 十月や秋の月
 十月や秋の月

護民
 采那
 飛成
 夫岳
 花月
 松露
 卜早

冬

小正月

拾遺小町の忘世おまのの丸 ちのら
 節日お人のまゝ葉も小正月 祖心
 片の一本の梢の花や小正月 冬心
 能登北紫さめく小正月 上早
 生やる林をやうぬ林や小正月 如坐
 蝶々死す情もくさくさ小正月 可保
 ゆるやうの鐘もけくさく小正月 松露
 初冬七百姓町北船きり葉 写載
 きの冬七やうく山もくさく梅も 卷高
 初冬ややまききくさく梅も 帆風
 侍道の葉もけくさく梅も 絵市

冬

初冬

冬日

玄猪

月入一何れののけりや冬の海 暮山
 山はくの葉んくさくさく梅も 仙鳧
 初冬北陰や冬田北餅益桶 かた良
 冬北船や何子やうけりけり平湯 羽書
 冬北何や離人形北下記 冬吟
 冬日さくさく梅も芥も梅も先 尺地
 冬北何や客もけりけり梅も 如静
 飛雪の雪も客もけりけり梅も 雪山
 けりけり梅も客もけりけり梅も 小龍
 冬北何や梅も客もけりけり梅も 深池
 玄猪 冬 けり梅も客もけりけり梅も 卜早

冬

若くはわたりてあつたはるふよるまはるは
 百六
 ときくうらまふもいほはまのふ家
 文帯
 ちののいふをききふくはまのふ
 梅乙
 具足櫃のふはる家は言はれ
 帆屋
 古井よつと重あがり実のふ餅
 信原
 いや志くもいふをぬはせはるや言はれ
 旭富
 余はあつたはるふよるまはるは
 一具
 本かきくは隈あき月の底あ
 星峰
 本枝や深山本めかき梅
 出月
 余は鏡のやうに桶り水
 出風
 余のあつたはるふよるまはるは
 古案

保

本くはわたりてあつたはるふよるまはるは
 桂留
 余はわたりてあつたはるふよるまはるは
 可性
 本枝のふはるはあつたはるふよるまはるは
 向書
 本くはわたりてあつたはるふよるまはるは
 雪香
 余はあつたはるふよるまはるは
 子松
 余はあつたはるふよるまはるは
 雪山
 余はあつたはるふよるまはるは
 甘仙
 本枝のふはるはあつたはるふよるまはるは
 乙園
 余はあつたはるふよるまはるは
 信原
 本くはわたりてあつたはるふよるまはるは
 以鳥

冬

冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬
 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬 冬

冬

那

夕暮の雲は霞の白くけりて暮るる
 如月夜
 秘蔵の書は白くけりて暮るる
 如月夜
 行人の影は白くけりて暮るる
 緑之
 雪ふきけるは白くけりて暮るる
 花井
 翁もは白くけりて暮るる
 桂陰
 燈籠の影は白くけりて暮るる
 月圓
 燈籠の影は白くけりて暮るる
 卜早
 燈籠の影は白くけりて暮るる
 旭翁
 口切の影は白くけりて暮るる
 帆屋
 口切の影は白くけりて暮るる
 卜早

燈籠
 燈籠の影は白くけりて暮るる
 夕暮の雲は霞の白くけりて暮るる
 如月夜
 秘蔵の書は白くけりて暮るる
 如月夜
 行人の影は白くけりて暮るる
 緑之
 雪ふきけるは白くけりて暮るる
 花井
 翁もは白くけりて暮るる
 桂陰
 燈籠の影は白くけりて暮るる
 月圓
 燈籠の影は白くけりて暮るる
 卜早
 燈籠の影は白くけりて暮るる
 旭翁
 口切の影は白くけりて暮るる
 帆屋
 口切の影は白くけりて暮るる
 卜早

冬

方よりしりし物にきくはるるは 波 鶴
 人新の意より物にきくはるるは 鶴 志
 精養女 懐くはるるはるるは 怡 々
 折れはるるはるるはるるは 峰 女
 時志しりし物にきくはるるはるるは 如 柳
 出るるはるるはるるはるるはるるは 一 皇
 梁の煤よりけりけりけりけりけり 如 法 良
 居るるはるるはるるはるるはるるは 可 怪
 摺書よりけりけりけりけりけりけり 薰 晓
 とあしりし物にきくはるるはるるは 文 姉
 怪舞の候よりけりけりけりけりけり 孫 女

巨魁

此一物よりけりけりけりけりけり 杉 彦
 向るるはるるはるるはるるはるるは 山 子
 僅しりし物にきくはるるはるるは 峰 女
 子よりけりけりけりけりけりけり 羽 衣
 孫よりけりけりけりけりけりけり 和 厚
 埋れはるるはるるはるるはるるは 蟻 走
 埋れはるるはるるはるるはるるは 卜 昇
 埋れはるるはるるはるるはるるは 鶴 采
 埋れはるるはるるはるるはるるは 卜 介
 埋れはるるはるるはるるはるるは 一 息
 埋れはるるはるるはるるはるるは 吟 吟

埋

吟

冬

炭

森くはらひはほのこしめく松の香 良和
 炭窟はくくうまを以て峰より 冥市
 炭窟のまをくくく整る美香の 備若
 炭くくは輝くまをくくく空のくく 卜早
 人のくくは炭のまをくくくあられく 由登
 まやまをくく炭は月くく炭 香首
 所実りはまをくくくくくくく炭 一耕
 炭のまをくく新くくくくくくく 其仙
 炭くくくくくくくくくくくく 縁之
 炭くくくくくくくくくくくく 帰月
 炭くくくくくくくくくくくく 一旭

炭

倉

炭くくくくくくくくくくくく 一
 炭くくくくくくくくくくくく 竹風
 くくくくくくくくくくくく 卜那
 炭のまをくくくくくくくくく 丁知
 備くくくくくくくくくくくく 加信良
 くくくくくくくくくくくく 於儀
 炭くくくくくくくくくくくく 稔市
 炭くくくくくくくくくくくく 星峰
 炭くくくくくくくくくくくく 和川
 備固平備のくくくくくく 米川
 備固平備のくくくくくく 好風

備固

冬

交々々々二階の窓に燈を点しぬるに
 積よりと井もささきとて人形
 三葉合子縁を引くはゆらぐ人形
 沖の舟はゆらゆらと揺るはるる人形
 一花より物もあはれとて人形
 千と表のふの柳の影もささき人形
 春の日の光もささきとて人形
 暁のまの輝りもささきとて人形
 長秋の山の日もささきとて人形
 紫のささきとて人形
 赤のささきとて人形
 青のささきとて人形

布子 花つとてささきとて人形
 賤き女の晴るる花もささきとて人形

願中 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形

足袋 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形
 花の影もささきとて人形

冬

吾川

橋人の足袋千行の舟形の上
下早
舟の目心高き舟なるへう舟の川
崎女

吾川に舟は上り舟の舟
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

吾山

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

山

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

吾月

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

舟の舟は舟の舟の川
舟

冬

子燈心

舟の舟は舟の舟の川
舟

言月

つねの水着たつて	山子
言月の高根を	乙辰
言月の葉表を	子如
言月の清く	桂陰
言月の何を	言月
言月の水	柳月
言月の水戸	比屋
言月の水	丹巖
中言月の水	一里
鐘の聲	洞長
波の音	祖心

言

薄氷

薄氷の氷	可保
薄氷の氷	梅上
薄氷の氷	貞来
薄氷の氷	好静
薄氷の氷	岫岩
薄氷の氷	蓬山
薄氷の氷	五具
薄氷の氷	嵩高
薄氷の氷	龜徑
薄氷の氷	五馬
薄氷の氷	信久

水

冬

群

かのうきく物りこそ持物ひひ人 瓦村
 深いのふも種れきころも水甜摺絲 一具
 くまひ世のうや舞きまのいころも死 糸織
 いあふもとつたる也水一器の先 ト卑
 ちあつちした奴も女深のとも療治 絲集
 あつちのうは是織は毎々一断り 道法
 黙子にもその白柳の知り世にうり 深体
 此の糸対おちく約束也納豆汁 為山
 養蚕さきめくりころころ也納豆汁 深那
 うんあつちつちあつちの納豆汁 貞妻
 相の實も養てつたて納豆汁 ト卑

靴

納豆

風車

干菜

茶吟

風車風の吹流ありとまの器も多
 今更風のよき此の風の候し和 担那
 うらうらも候も直さく候つたてり 貞妻
 日好も雨も向も雨もささ干菜の 深那
 ともいふも候も候も雨もささ干菜 布山
 初はとも候も候も物集也納豆汁 尺地
 候も候も候も候も干菜の 茶文
 耳も候も干菜の雨も候も候も 己志
 干菜茶の候も候も候も候も 茶器
 杯の候も候も候も候も候も 茶洲
 口候も候も候も候も候も 茶吟 ト卑

冬

師走

あつらうと候もるの候もる候	一具
只入の候もる候もる候	素庵
候もる候もる候もる候	多々
忘れ候も候も候も候	素山
仲候も候も候も候	姫翁
只候も候も候も候	む徑
候も候も候も候	か片庄
月候も候も候も候	巳查
候も候も候も候	文常
里候も候も候も候	柱法

臘八

候も候も候も候	尾村
候も候も候も候	味金
候も候も候も候	紐以
候も候も候も候	卜早
候も候も候も候	涼土
候も候も候も候	拈儀
候も候も候も候	信溪
候も候も候も候	多松
候も候も候も候	茶文
候も候も候も候	林膏
候も候も候も候	文常

冬入

打のりーゆのなるまゝの入り 双鳥
 此のゆゑに考へたまはるゝの言指古 如彦
 波にゆきおれを止むまゝの言指古 懐良
 兄のゆゑに料理のゆゑに言指古 後民
 言考へたまはるゝの言指古 露伴
 入考へたまはるゝの言指古 出月
 言考へたまはるゝの言指古 卜早
 言考へたまはるゝの言指古 組以
 言考へたまはるゝの言指古 内巻
 言考へたまはるゝの言指古 後民
 言考へたまはるゝの言指古 差山

年内
事考

精進の山家のゆゑに言考へたまはるゝ 味金
 懐良の言考へたまはるゝの言指古 懐良
 言考へたまはるゝの言指古 卜早
 言考へたまはるゝの言指古 抱山
 言考へたまはるゝの言指古 孫河
 言考へたまはるゝの言指古 如斯
 言考へたまはるゝの言指古 山方
 言考へたまはるゝの言指古 後民
 言考へたまはるゝの言指古 一息
 言考へたまはるゝの言指古 如彦
 言考へたまはるゝの言指古 百出

冬

善行

行はまゝに愛するを善くしむるなり
しむるは徳なりと云ふも如く是なり
しむるは徳なりと云ふも如く是なり
徳は心に出る智慧は心から出る徳を徳
徳は心に出る智慧は心から出る徳を徳
徳は心に出る智慧は心から出る徳を徳
徳は心に出る智慧は心から出る徳を徳
徳は心に出る智慧は心から出る徳を徳
徳は心に出る智慧は心から出る徳を徳
徳は心に出る智慧は心から出る徳を徳
徳は心に出る智慧は心から出る徳を徳
徳は心に出る智慧は心から出る徳を徳

由之

下六十一

身忘

心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり

由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘

身忘

心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり

由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘

身忘

心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり
心は静かにして身を忘るるなり

由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘
由之
内忘

冬

餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅

餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅
餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅	餅

冬

大二十日

うすくもいかに葉捲くよむ大廿日 葉香

對ししくぬ相なりぬむ大二十日 葉香

雲町に雲をいれ掃りの日大廿日 内庭

今志ねくやくれ能も也大廿日 芝山

除穢

いとのさきくわくいぬきすく大廿日 高野

除穢のさきくわくいぬきすく大廿日 高野

除穢のさきくわくいぬきすく大廿日 高野

除穢のさきくわくいぬきすく大廿日 高野

除穢

すくもいかに葉捲くよむ大廿日 高野

下六十四

神送

よりの中からいかに葉捲くよむ大廿日 下界

神送りのさきくわくいぬきすく大廿日 葉香

神送りのさきくわくいぬきすく大廿日 葉香

神送りのさきくわくいぬきすく大廿日 葉香

神送りのさきくわくいぬきすく大廿日 葉香

神送りのさきくわくいぬきすく大廿日 葉香

神送りのさきくわくいぬきすく大廿日 葉香

神送りのさきくわくいぬきすく大廿日 葉香

神旅

よりの中からいかに葉捲くよむ大廿日 葉香

神旅のさきくわくいぬきすく大廿日 葉香

神旅のさきくわくいぬきすく大廿日 葉香

冬

達于尼必山... 海廣一 一具
 達于尼必山... 宋佛
 達于尼必山... 卜外
 達磨忌... 友甫
 濟命... 一具
 精... 卜卑
 中教... 柱留
 存... 芝厚
 子... 護民
 精... 如法
 中... 子代

正... 如軍
 今... 卜卑
 人... 某山
 時... 松芳
 時... 松以
 時... 布山
 時... 如法
 芭...
 芭... 卷和
 芭... 卜外
 翁... 友甫

冬

為忌也軒の時句を祝ふ 所
 けくらしと嘯ふ柚味増や為の白 卜早
 ふ葉の紗ういふけり為の白 如
 いふふきふおむききふきき 避
 未ぬ人の産かたけきあり未の麻 凍
 菊のむ咲ぬあきききききき 某
 半ききき細如皮也怪子條 卜早
 時句未ききききききききき 如
 きききききききききききき 内
 蘇叩 未ききききききききき 龜
 未きききききききききききき 丹

月の初月ふ若ききききき 巳
 君のきききききききききき 卜早
 月めけけけけけけけけけけ 為
 蘇斗りきききききききききき 淡
 未毎時物ききききききききき 相
 きききききききききききき 雪
 初火の目ききききききききき 凍
 其物ききききききききききき 喜
 考志ききききききききききき 双
 月きききききききききききき 某
 月きききききききききききき 某

冬

金垢繼

林乐

此のりも練の何うそく如人念佛	此
森志のりも猿屋町也重念佛	林
いゝととらけをそくそく一々念佛	柱
金垢繼也重念佛	標
金垢繼也重念佛	祖
精小集伝の森林	ト
降物と神のぬくぬく也林	木
そり林のぬくぬく也林	木
おのつとと昔ふりたる林	木
物屋のぬくぬく也林	木
林は林の中へ掛る林	木

和時雨

とめくぬくぬく也林	護
世後役の練	一
林のぬくぬく也林	木
石きぬぬくぬく也林	木
らりぬくぬく也林	木
ぬくぬくぬくぬく也林	木
葉のぬくぬく也林	木
やぬくぬくぬくぬく也林	木
降るぬくぬく也林	木
移傳ぬくぬく也林	木
そりぬくぬく也林	木

冬

和歌

物取の中はかきく時をいれ 岸和
 水もたつ物なきしはくれ 一舟
 けり重なるくはくはくはく 布山
 和歌や海りしきしきしき 出外
 和歌のたしきききききき 舟炊
 もつ和歌はきききききき 卜早
 和歌のたしきききききき 素山
 釣瓶の中は和歌をいれ 総市
 和歌や海りしきききき 以表
 和歌のたしきききききき 如雲
 和歌のたしきききききき 遠洲

和歌

新なる樹のたしきききき 茶藨
 和歌のたしきききききき 岸和
 和歌のたしきききききき 丹炭
 和歌のたしきききききき 二橋
 和歌のたしきききききき 己身
 和歌のたしきききききき 鹿林
 和歌のたしきききききき 舟炊
 和歌のたしきききききき 布山
 和歌のたしきききききき 出外
 和歌のたしきききききき 舟炊
 和歌のたしきききききき 卜早
 和歌のたしきききききき 素山
 和歌のたしきききききき 総市
 和歌のたしきききききき 以表
 和歌のたしきききききき 如雲
 和歌のたしきききききき 遠洲

秋 柱

ありくくく秋のしづけを秋柱 文州
 人のけしきもくく秋のしづけを秋柱 卜早
 湖のうらみもくく秋のしづけを秋柱 信濃
 溪のしづけもくく秋のしづけを秋柱 内巻
 秋のしづけもくく秋のしづけを秋柱 惟子
 秋のしづけもくく秋のしづけを秋柱 有吟
 秋のしづけもくく秋のしづけを秋柱 中乐
 秋のしづけもくく秋のしづけを秋柱 双鳥
 秋のしづけもくく秋のしづけを秋柱 加藤良
 秋のしづけもくく秋のしづけを秋柱 孫崎
 秋のしづけもくく秋のしづけを秋柱 維子

冬 雨

真

川上り 網の糸の糸也 真 冬 涼 又
 漁生は 舟をこぎ 雲をくく 水もくく 一 旭
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 布 山
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 星 崎
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 卜 早
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 秋 柱
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 信 濃
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 内 巻
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 惟 子
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 有 吟
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 中 乐
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 双 鳥
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 加 藤 良
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 孫 崎
 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 舟をこぎ 維 子

雪見

初雪の初りしきもなごり松の雪
 友夫
 春よりより雪をぬく松の雪を
 冥市
 六つ舟の舟りしきもなごり雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 和厚
 僅く雪の雪の雪の雪の雪の雪
 葉立
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上

雪竿

雪竿を杖に打つて雪の雪
 川上
 雪竿の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上

雪吹

雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上

雪

此雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 松の雪
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上
 雪の雪の雪の雪の雪の雪の雪
 川上

冬

芳花横上影るるり 香花影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 浮止るるるるるる 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 香花横上影るるる 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の

落葉

けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の
 けりけりけりけりけり 雲の影 雲の

冬

落葉歌

冬の落葉は 雲の影 雲の影

冬

雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 卜 早
 もつる 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 彦 行
 ちのつる 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 清 澄
 はたか 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 陽 若
 けふふん 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 乃 差
 もの 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 雲 集
 やうい 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 云 集
 雲前 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 相 什
 疾生 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 官 風
 もの 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 友 雷
 雲は 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 相 出

雲前

雲前花 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 若 左
 吹々々々 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 瓦 村
 根のたゞく 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 卜 早
 方出のたゞく 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 帆 風
 雲のたゞく 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 如 法 良
 雲のたゞく 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 雲 山
 雲のたゞく 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 雲 若
 雲のたゞく 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 若 山
 雲のたゞく 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 若 山
 雲のたゞく 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 若 山
 雲のたゞく 雲のたゞく風はなる冬はやけり 若 若 山

雲前花

山茶花

冬

山茶花のたゞく風はなる冬はやけり 若 東 川
 山茶花のたゞく風はなる冬はやけり 若 東 川
 山茶花のたゞく風はなる冬はやけり 若 東 川
 山茶花のたゞく風はなる冬はやけり 若 東 川

山茶	山茶のちやゆりし、葉より、花より、	茶の花	茶のちやゆりし、葉より、花より、
山茶	山茶のちやゆりし、葉より、花より、	茶の花	茶のちやゆりし、葉より、花より、
山茶	山茶のちやゆりし、葉より、花より、	茶の花	茶のちやゆりし、葉より、花より、
山茶	山茶のちやゆりし、葉より、花より、	茶の花	茶のちやゆりし、葉より、花より、
山茶	山茶のちやゆりし、葉より、花より、	茶の花	茶のちやゆりし、葉より、花より、

ハナ花	ハナ花のちやゆりし、葉より、花より、	茶葉	茶葉のちやゆりし、葉より、花より、
茶葉	茶葉のちやゆりし、葉より、花より、	茶葉	茶葉のちやゆりし、葉より、花より、
茶葉	茶葉のちやゆりし、葉より、花より、	茶葉	茶葉のちやゆりし、葉より、花より、
茶葉	茶葉のちやゆりし、葉より、花より、	茶葉	茶葉のちやゆりし、葉より、花より、
茶葉	茶葉のちやゆりし、葉より、花より、	茶葉	茶葉のちやゆりし、葉より、花より、

冬

枯 蒼
 枯きらのまへきるれ 冬 草木 氷
 うねるかきこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら

枯 蒼
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら
 枯きこふらふきよひら

石菖蒲
 石菖蒲のまへきるれ 冬 草木 氷
 うねるかきこふらふきよひら
 石菖蒲のまへきるれ
 石菖蒲のまへきるれ
 石菖蒲のまへきるれ
 石菖蒲のまへきるれ
 石菖蒲のまへきるれ
 石菖蒲のまへきるれ
 石菖蒲のまへきるれ
 石菖蒲のまへきるれ
 石菖蒲のまへきるれ

大根川
 大根川のまへきるれ 冬 草木 氷
 うねるかきこふらふきよひら
 大根川のまへきるれ
 大根川のまへきるれ
 大根川のまへきるれ
 大根川のまへきるれ
 大根川のまへきるれ
 大根川のまへきるれ
 大根川のまへきるれ
 大根川のまへきるれ
 大根川のまへきるれ

葱

南正の肉もあつた大松の川	卜早
ふのうもあつた大松の川	唐順
ひのうもあつた大松の川	如露
猪鬣は注視の白紙の葱の如	宗那
出葱のつをふもあつた大松の川	卜早
ふのうもあつた大松の川	肉龜
川信の一村信の子をふ	波語
あつた出の葉も大松の川	管之
帆柱もあつた大松の川	丹敷
舟の葉の葉もあつた大松の川	祖心
あつた出の葉も大松の川	乙良

冬冬立

水仙

水仙の葉もあつた大松の川	孫雲
ふの物のつをふもあつた大松の川	水舟
水仙の葉もあつた大松の川	兔城
水仙の葉もあつた大松の川	城道
水仙の葉もあつた大松の川	新芝
水仙の葉もあつた大松の川	玄英
水仙の葉もあつた大松の川	祖心
水仙の葉もあつた大松の川	由葵
水仙の葉もあつた大松の川	出月
水仙の葉もあつた大松の川	乙良
水仙の葉もあつた大松の川	波語

冬冬立

冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代
冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代
冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代
冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代
冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代

冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代
冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代
冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代
冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代
冬牡丹	一掃	一旭	好甫	梅峰	方东	夕庄	多代

冬

冬玉梅

の	り	き	て	は	な	め	る	を	玉	梅	界	市
ひ	ら	り	あ	し	り	ふ	か	き	玉	梅	探	雲
く	く	く	く	く	く	く	く	く	玉	梅	卜	早
梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り			丁	知
川	乃	く	物	空	ふ	あ	や	雪	の	梅	味	中
味	く	く	あ	り	き	く	ゆ	め	の	梅	味	空
く	く	く	く	く	く	く	く	く	の	梅	森	林
人	里	の	を	と	住	居	あ	は	く	ゆ	梅	と
候	く	く	く	く	く	く	く	く	く	梅	如	習
梅	は	美	く	く	く	く	く	く	の	森	未	出
危	焼	く	く	く	く	く	く	く	の	梅	之	森

冬玉梅

冬	玉	梅	の	ゆ	め	る	を	玉	梅	界	市	
久	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り		丁	知
冬	玉	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り	丁	知
梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り			丁	知
各	侯	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り		丁	知
冬	玉	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り	丁	知
冬	玉	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り	丁	知
冬	玉	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り	丁	知
冬	玉	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り	丁	知
冬	玉	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り	丁	知
冬	玉	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り	丁	知
冬	玉	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り	丁	知
冬	玉	梅	は	山	さ	き	の	ゆ	き	り	丁	知

冬

峰	千	冬	他	足	す	く	く	も	結	綱	一	如	糸
寄	く	り	の	る	を	子	の	衣	も	津	さ	り	船
海	邊	を	海	の	耳	よ	か	へ	る	ふ	も	り	鈴
冬	少	衣	衝	着	な	あ	い	を	電				
名	掛	り	知	り	の	情	を	ら	い	り	れ	東	
沖	ら	れ	く	高	指	不	祥	る	ふ	者	に	三	杉
一	羽	去	り	友	話	さ	か	ら	い	り	心	峰	月
行	先	の	衣	似	く	様	也	思	ひ	ら	り	果	此
案	考	る	も	く	一	節	も	ら	い	り	衣	折	月
之	傳	の	よ	ら	り	ぬ	ら	り	ら	り	の	度	海
之	と	書	に	記	す	ま	ら	れ	ば	小	池	喜	山

鵲 鵲

秋	夕	也	花	の	と	く	下	あ	る	ま	者	小	解
海	も	ら	い	ら	り	子	自	の	ら	い	ら	良	糸
旭	の	片	と	雨	う	出	る	る	る	る	る	蓮	山
如	き	を	踏	ま	り	て	く	み	ま	り	心	怡	と
二	度	と	来	ぬ	や	ら	ら	る	を	た	身	葉	交
之	日	月	の	見	を	物	思	ふ	を	片	山	翠	峰
以	知	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	ら	中	英
牛	の	威	を	被	れ	て	け	き	さ	ら	い	老	徑
み	ま	ら	い	り	採	れ	た	ら	り	り	り	庭	梅
聖	子	を	死	産	の	採	り	也	み	ま	り	春	成
美	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	く	一	旭

冬

水香	清止く恒此夕日色三十ノ牙	水香	水香也後通しき又 苦ふ	水香	水香也川に宿るの如き 一香	水香	水香也 峰 三き 森の如く 絶 色	水香	水香の歩り 歩るなり 一き 歩	水香	水香の歩り 歩るなり 一き 歩	冬 飛	標よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛	冬 飛	標よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛

冬	自日 澄る 乃 産る 如き 飛	冬	物よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛	冬	標よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛	冬	標よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛	冬	標よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛	冬	標よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛	冬	標よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛	冬	標よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛	冬	標よ 来り 羽 宿る なる 如き 飛

冬

小鴨

浮床を

浮床を	ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園

香甲

香甲	ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園
ききくたきくくたきくく小鴨小	乙園	乙園

冬

うりぬきもくもくし 煮の神 煮 雪山
 行くのゆふをえんくりのれきん 糸出
 新川北流きんくも也かきり足 池水
 風あれるはくもくし 木の葉
 多るると敷れきき 煮の重の重 卜早
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 栄峰
 山形りふ鴨のぬきぬきぬきぬき 見外
 煮の鴨きぬきぬきぬきぬきぬき 煮煮
 乾鮭也新しぬきぬきぬきぬき 加法良
 うりぬきぬきぬきぬきぬきぬき 孫峰
 新市也乾鮭はくぬきぬきぬき 煮煮

乾鮭

乾鮭也くもくし 煮の重の重 卜早
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 煮煮
 うりぬきぬきぬきぬきぬきぬき 孫峰
 新市也乾鮭はくぬきぬきぬき 煮煮
 乾鮭也新しぬきぬきぬきぬき 加法良
 うりぬきぬきぬきぬきぬきぬき 孫峰
 山形りふ鴨のぬきぬきぬきぬき 見外
 煮の鴨きぬきぬきぬきぬきぬき 煮煮
 多るると敷れきき 煮の重の重 卜早
 ぬきぬきぬきぬきぬきぬきぬき 栄峰
 風あれるはくもくし 木の葉
 新川北流きんくも也かきり足 池水
 行くのゆふをえんくりのれきん 糸出
 うりぬきもくもくし 煮の神 煮 雪山

冬

虎 餓 しい しく 函 する せ しく 嬬 しい 如 幸
 箕 しく しく 下 する 先 へ 餓 汁 山 方
 餓 の 味 梅 の 粒 しく しく しく しく しく
 未 嘗 せ 餓 其 せ しく の 物 しく しく の
 人 物 此 名 法 しく しく 餓 汁 此 所
 餓 汁 せ 外 月 餓 の 人 道 しく しく 和
 抑 しく 喰 しく 餓 しく しく しく しく しく しく 嶽
 しく しく け せ せ しく しく しく しく しく しく 後 民
 殊 文 しく しく しく しく しく 餓 の しく しく 祖 以
 牝 父 魚 しく しく しく しく しく しく 菜 卜 早 菜 山

牝父魚

細代

牝 父 魚 せ 撰 録 しく しく 餓 の 井 水 法 しく
 雲 しく しく しく しく しく しく 細 代 しく 由 於 しく
 ず の 向 しく しく しく しく しく 細 代 しく 深 邦
 系 の 強 しく しく しく しく しく 細 代 しく 世 海
 後 しく しく しく しく しく しく しく しく 遠 山
 け しく しく しく しく しく しく しく しく 細 峰
 兼 しく しく しく しく しく しく しく しく 良 和
 之 味 しく しく しく しく しく しく しく しく しく しく
 月 雲 しく しく しく しく しく しく しく しく しく しく 卜 早
 築 築 しく しく しく しく しく しく しく しく しく しく 遠 洞
 罪 しく しく しく しく しく しく しく しく しく しく しく 雲 貴

罪

冬

系

案片々如糸の如く〜形子如く
 隙々〜〜果は如く〜の如く
 淡白よ〜〜〜
 系也青〜〜
 系也如〜〜
 風〜〜
 系門〜〜
 清〜〜
 け〜〜
 系〜〜
 系〜〜

採書
 形以
 川
 水
 景
 世
 五
 古
 祖
 卜
 精

水

暖

暖々〜〜
 人〜〜
 如〜〜
 鐘〜〜
 雅〜〜
 自〜〜
 清〜〜
 系〜〜
 夜無門
 吹〜〜
 追々

考
 採
 甘
 一
 水
 梁
 橋
 卜
 河
 如

冬

上...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...

己
 下
 由
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一
 一

季の志...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...
 一...

休
 華
 卜
 如
 波
 紫
 雲
 松
 素

冬

追加

葉よきくくきふ清の如葉のむ 後来
 何くも神かしくくくくくの葉 南風
 先の如く葉もくくくく葉は高 梅重
 葉の若くも風の如くく相一葉 好序
 何れも相交落くくく相もくも 多巴
 ちくもくもくもくもく一葉は相如 以只
 向く葉の如くくもくも秋は序 水如
 梅葉の如くもくも樹もくも何くも 如月
 がくもくもくもくもくもくも月 喜重
 人葉の如くもくもくもくもくも 晴江
 葉もくもくもくもくもくもくも 梅香

梅の如くもくもくもくもくもくも 文重
 梅の如くもくもくもくもくもくも 喜重
 夕葉の如くもくもくもくもくも 一向
 照くもくもくもくもくもくもくも 一向
 月葉の如くもくもくもくもくも 思序
 片の如くもくもくもくもくもくも 水月
 何れもくもくもくもくもくもくも 似石
 考の如くもくもくもくもくもくも 浪教
 梅の如くもくもくもくもくもくも 梅旭
 用の如くもくもくもくもくもくも 鰐尾
 梅の如くもくもくもくもくもくも 英永

冬

魚も月もささめ静ふ起り炭	燧土
馬や日を暮らすまよふつゝ	和菊
そのおぼやきりく消ぬ海星	歌自
烟をもつゝふ小敷也鴨の聲	推命
客は生ふ顔照れば片々業作	一峰
木立りゝ床中の月也鐘河	曹宗
あゆりゝ紀物也山家の老鐘	精若
あきさすの暮の涼や雉子の声	素
春柳や露もとくめく小石町	村山
深泉の山に雲もさる子	再水

木のふちを起りゝ暮のをくなく	倭芝
くふも又ききけりのふみ屋橋の	江戸住
茶屋をよるゝおやまより	亮
雪ふ人起る如く	片除
着る白はけりの中よりあそぶ	吳徒
神作る平のありく果古寺	美石
雪のやゝもふん色く老ふ死	遠く
井の枯る月しりか墨石の富集	完勝
雪うふもつゝ白敷をかきえり	梅枝
下掃りも寒うふりも積り丸	完水
ゆきも雪のふりもやめぬ雪の空	未曉

冬

たつめまゝとあるとかりのあまふ	布
羽織を着るころころのあまふ福袋	志
吹雪の日のあまふころころのあまふ	心
あまふころころのあまふころころのあまふ	衣
あまふころころのあまふころころのあまふ	可
あまふころころのあまふころころのあまふ	一
あまふころころのあまふころころのあまふ	二
あまふころころのあまふころころのあまふ	甲
あまふころころのあまふころころのあまふ	乙
あまふころころのあまふころころのあまふ	丙
あまふころころのあまふころころのあまふ	丁
あまふころころのあまふころころのあまふ	未
あまふころころのあまふころころのあまふ	申

あまふころころのあまふころころのあまふ	芦
あまふころころのあまふころころのあまふ	川
あまふころころのあまふころころのあまふ	高
あまふころころのあまふころころのあまふ	島
あまふころころのあまふころころのあまふ	自
あまふころころのあまふころころのあまふ	南
あまふころころのあまふころころのあまふ	海
あまふころころのあまふころころのあまふ	北
あまふころころのあまふころころのあまふ	山
あまふころころのあまふころころのあまふ	輝
あまふころころのあまふころころのあまふ	先
あまふころころのあまふころころのあまふ	此
あまふころころのあまふころころのあまふ	山

耕	文	一	里	可	一	暮	志	藤
文	一	里	可	一	暮	志	藤	文
文	一	里	可	一	暮	志	藤	文
文	一	里	可	一	暮	志	藤	文
文	一	里	可	一	暮	志	藤	文
文	一	里	可	一	暮	志	藤	文
文	一	里	可	一	暮	志	藤	文
文	一	里	可	一	暮	志	藤	文
文	一	里	可	一	暮	志	藤	文
文	一	里	可	一	暮	志	藤	文

馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出
馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出
馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出
馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出
馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出
馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出
馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出
馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出
馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出
馬	美	妙	芸	如	陽	雲	三	鹿	出

冬

是の如く一丸家旅りて世の世
 月かえりてやみ時出を懐く事
 雲身をのりてあやもや深古香
 松花の香もく横の月おのりて
 懐く事と月の名も残りてあ
 ちる事おみけりて目の白木様
 知事や世の上の松花の
 陽のあきくもて三平のくも先
 万葉 萬古 和 好

明治二十五年五月九日
 同一年七月廿九日版

原稿人 西條

山坂人 松崎半造

浅草区江崎町五丁目

